

「本当の豊かさ」

奈良県 智辯学園奈良カレッジ中学部 3年

北川 華

日本は本当に便利な国です。一日中営業しているコンビニエンスストアに、毎日きちんと時間通りにやって来る電車やバス。それらに乗る際、センサーにかざすだけで運賃を支払うことができる IC カードなど。スマートフォンやパソコンの普及もあって、私達の暮らしはどんどん豊かになってきました。しかし、ニュースを見ていると、長時間労働のストレスによる過労死や自殺などの暗い話題が度々報道されています。豊かに、楽になる私達の暮らしと、減らない過労死や自殺。これらの背景には、いったい何が潜んでいるのでしょうか。

一見真逆に見える便利さと人々のストレスですが、実はそれらは互いに逆なのではなく、むしろ便利さがあるからこそ人々の負担が大きくなっているのではないのでしょうか。「便利」の裏には必ず人がいて、そのシステムが上手く回るようにしなければなりません。それだけでなく、便利になればなるほどその「便利さ」への有難みが薄れ、いつしか当たり前だと勘違いし、人々はその時点以上の便利さを求めるようになります。これらが続くことで結局は物理的な豊かさの代償として精神的な豊かさが失われてゆくのです。

最近の人は昔に比べて、本当に心の豊かさを得にくくなっていると思います。そしてそれは、今の日本の社会の仕組みが一番の原因だと思います。今日の日本は都市化が進められ、勤める人中心の時代となりました。また、女性が活躍できる職場も徐々に増え、共働きの家庭も増えてきました。そういう社会を目指すのは良いことですが、現実には、子供はどうなるでしょう。多くの場合、保育所に預けられるのです。昔は二世代の同居が普通で、近所の付き合いも親密であったことからお互い支え合いながら暮らすことができました。その分、人と関わる機会も多かったと思います。人と関わる機会もさほど充実しておらず両親の帰りが遅い今日の子供達の間関係は、ますます希薄なものになっていてはいないでしょうか。子供の頃からたくさんの人と関わり、人との付き合い方や友情や愛情を学べるような環境が必要です。だから、企業や会社は営利面のことばかりでなく、働く人々の家庭や生活も考えて運営していくべきだと思います。残業や夜勤などは、社会にとっては必要でも家庭にとってはあまり好ましくありません。仕事の特性から、どうしても夜の勤めが必要なことがあるのは理解できます。そういう勤務をしてくださる方々のおかげで成り立っていることも少なくありません。しかし、昼間の勤務がベースの会社での長時間勤務は、何とかかなと思うのです。夜はきちんと寝て、朝から夕方まで働いて、夜になるまでには家に帰り、家族と共に食卓を囲む——。そんな、心も体も健全な生活を送れるように、長時間労働はもう止めにしましょう。今の日本は経済成長ばかりを求めているような気がしてなりません。政府が働き方改革を打ち出しているのも、物が豊かでも心が豊かでなければ意味がないからでしょう。「思いやりを大切に」という言葉をよく耳に

しますが、本当にそうだと思います。自分と違う立場の人々もお互いに思いやって考えて、皆が無理なく働ける社会を目指すべきです。

目の前の便利さの裏に人がいることを忘れないで、色々なことに素直に感謝することができる。たくさんの人々と関わる機会に恵まれて、物にも恵まれて、そして何よりも心が豊かであること——。働く人々の生活までも考慮する、愛のある会社がもっと増えて、皆元気に働ける。日本が、そんな思いやりの心で溢れる国になったらいいなと思います。やはり、一番大切なのはひとりひとりの心で、それは決してお金や物と換えられないのです。冷めた社会に流されないで欲しいと願います。日本は様々なものに恵まれたとても素敵な国です。しかし、国が豊かでも国民の心が豊かでなければ、日本は本当に豊かであると言えるでしょうか。